

## 前立腺がん (Q&A)

質 問	回 答
<p>1 尿道管がんになって手術をしました。今後気を付ける事はありますか？前立腺がんとの違いをおしえてください。</p>	<p>尿道管がんという疾患がないので、前立腺導管癌か 尿道癌か、尿膜管がんのいずれかを指しているものとして回答いたします。</p> <p>前立腺導管がんは、前立腺の腺房から発生する通常の前立腺癌と異なり導管から発生する腺癌です。導管は尿道近傍にあるため尿道周囲に発生し、初期に血尿や排尿困難をきたすことが多いようです。治療法は通常の前立腺癌と同等です。</p> <p>尿道癌の場合、がんの種類は腺癌ではなく尿路上皮がんとなり、前立腺癌とは全く異なる種類のがんです。前立腺癌より悪性度が高いため進行度によっては集学的な治療が必要となります。</p> <p>尿膜管がんは、胎生期の胎児の膀胱とお母さんの臍帯をつなぐ管である尿膜管に大人になって発生するきわめてまれな希少がんです。膀胱の頭側にできるがんですので前立腺がんとは異なります。治療はやはり集学的な治療となります。</p>
<p>2 家族は前立腺がん→左右の前立腺にあり（生検）、摘出時は前立腺のリンパ節郭清のみで、広範囲の郭清はしてもらえなかった。（術後）3倍の大きさ・突出する部分もあった。</p> <p>術前の診察でも、主治医へ2か月後のOPだから、進行も考えられる…相談しても「大変だから…」「自分へ任してください」のみ。昨年からロボット手術を開始しても、広範囲郭清は難しいのであれば、OPが出来るようになってから行ってほしかった。他のDr・他の病院へ依頼してほしかった。ロボット手術にこだわらなくても開腹でキチンと行ってほしかった。</p> <p>&lt;質問&gt; 拡大リンパ節郭清の技術は、修得してからOPをされますか？</p>	<p>前立腺癌のリンパ節廓清に関しては、議論の多いところですが2017 The Lancet oncology や 2018 European Urologyにて拡大リンパ節廓清と限局的廓清もしくは廓清なしとの群で比較し「拡大リンパ節廓清を行っても、全生存率や疾患特異的生存率の改善にはつながらない」という結論が現在の一般的なコンセンサスです。つまり診断的意義はあるが、治療的意義はない、さらに拡大廓清することで合併症が増加することが懸念されています。</p> <p>国内の少数の比較にて拡大リンパ節廓清の優位性を示唆する報告もありますが、国際的な多数例の解析では上記の結論です。</p> <p>今後、拡大リンパ節廓清の有効性が科学的に証明されることがあれば、当院でも同手技も取り入れて行きたいと考えております。</p> <p>また一般的には限局前立腺癌は数か月で急速に増大することはほぼありません。そのため2か月間の手術待ち時間で患者さんに不利益をきたすこと無いと考えております。</p>
<p>3 前立腺がんは早期発見できれば根治できるがんとのことだが、どういう風に早期発見できる？検査？症状がでるもの？</p>	<p>前立腺がんの早期発見に最も有効なツールは、血液検査の前立腺特異抗原（P S A）という腫瘍マーカーです。P S Aの測定は、人間ドックやかかりつけ医でも簡単に測定できます。</p> <p>P S Aが高値の場合にはその数値の上昇に伴いがんの可能性が高くなります。</p> <p>ただ前立腺癌以外でも、肥大症や前立腺炎・尿路感染でも上昇しますので、P S A高値の際は、泌尿器科を受診されて二次検査を受けることをお勧めします。</p>